

◇平成21(2009)年12月8日 文教市民委員会
新図書館システム(ICタグ)について

No.32 灰垣委員

この広報に、1月15日からICタグを利用したシステムがスタートするというのが1面に載ってましたけれども、この自動貸出機の利用頻度というのか利用率というか、先進他市にお聞きしますと、3割程度を予定しているというようなこともお聞きしましたけれども、本市では、自動貸出機の利用率をどの程度に設定しようとしているのか、お聞かせください。

No.33 岩佐地域教育室参事

新図書館システムについてのご質問でございますが、当初予算で導入いたします自動貸出機と今回の補正で予定をしております予約棚、予約図書案内機、自動返却機の導入によりまして、貸出券の更新が必要な場合などを除きまして、貸し出し、返却につきましては、100%の自動化の利用を目指してまいりたいというふうに考えております。

No.34 灰垣委員

今のお話を聞きまして、自動貸出機で100%を目指すということになると、数字の上からいけば、おのずと人が要らないというようなことが考えられるのかなと思うんですが、本会議でも出てましたけれども、三鷹市はこのシステムを導入することによって人を大幅に減らしたということがありました。しかし、私は、図書館の職員の方が本来何をすべきかということを考えたときには、ただ人を減らしていくという、これを目標に掲げる必要はないのかなというふうに思っています。そういったところをひとつまたお聞きしたいと思います。

そして、先ほどからいろいろ議論がありましたけれども、また本会議でもありましたプライバシーの件なんですけれども、ほかの人の目から逃れるというか、プライバシーを守るためにはそういったことになると思うんですけれども、本来はこういうことはあってはいけないんですけれども、本やCDとかを壊してしまうというか、傷つけてしまうとか、そういったことが、今の図書館の全体を見ると、返ってこない本があったり、そういったモラルの部分も懸念されるように思うんですが、私は、一つの部屋で囲ってしまって全く人の目が届かないところにそういうシステムを設置するというのは、余り賛成ではないんですけれども、その2点、考え方をお聞かせください。

No.35 岩佐地域教育室参事

図書館のシステムを導入することによる効果についてのご質問でございますけれども、予約の受け取り、それから返却処理の迅速化や、利用者自身が貸出処理等を行っていただくことによるプライバシー保護、それから不正持ち出しの削減、蔵書点検の日数の削減などがシステムの効果として考えられます。業務の省力化も可能でございますので、今後は、利用者からの質問や相談などのレファレンス業務を充実するなど、本来、図書館が行うべき業務、サービスの向上に努めてまいりたいというふうに考えております。

これらのことによりまして、三鷹市のように貸出率の大幅なアップということも期待できるといふふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

次に、図書館における資料の破損等のことにつきましてのご質問でございますが、図書館におきましても、人から見えない陰になっている場所で資料が破損されるということもございますので、駅前図書コーナーを完全にほかの人の目から見えないようにしてしまいますと、職員はおりませんので、委員仰せの事態が懸念されます。したがって、駅前図書コーナーにつきましては、プライバシー保護の視点、それから市民の利便性を視野に入れながら、同時に資料の適切な管理ができるレイアウト等も含めて工夫をまいりたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

No.36 灰垣委員

自動貸出機というのも非常に利便性が高いということで、先ほどもいろいろお話がありましたし、また新聞で発表になった途端に問い合わせがあったという、非常に話題性もあるような感じなんですけど、やっぱりそういうハードパワーというのはハードパワーでしっかり整備していかなくちやいけないと思うんですが、ソフトパワーの部分としては、今の70名余りの司書の方が、高槻市には常勤、非常勤の方を入れていらっしゃるというふうにもお聞きしていますから、その人たちが本来の司書の業務——6つほど業務があるようですけども、今おっしゃったレファレンスサービスの部分に力を入れていただいて、ただ広く図書を利用することじゃなくて深く利用できるような、そういったアドバイスができるような、本来の司書の仕事ができるといったことが今回のことで考えられるんじゃないかと思っておりますので、今、ご答弁があったように、それをまず進めていただきたいなと思っています。

それから、プライバシーの部分ですけども、さらにこのすばらしいシステムを宣伝していくためにも、隠してしまうというのはどうかなというふうに思います。確かに、市民交流センターの1階という駅前の立地条件ということで、私も月に1回ぐらいはあそこに行きますが、この見取り図を見る限りでも、非常に厳しいスペースの中で整備されるということですから、しっかりとその辺を、先ほどから意見があったように精査して設置をお

願いしたいなと思います。

先ほどちょっと意見があった中で懸念があったのは、多目的ルーム利用のお話がありましたけれども、貸し館業務というのは、今、非常にニーズが高くて、借りれない方がたくさんいらっしゃるというのは私も認識していますので、そこはちょっと利用しないように、逆に考えていただけたらなと私は思っています。

それから、ちょっと意見を申し述べておきたいと思うんですが、教育とか、図書とかもそうですけれども、教育、科学技術というのは、非常に費用と手間がかかる割には、成果がすぐには見えてこない分野というふうに言われています。私もそのとおりだと思いますから、それを費用対効果ではかるということは、もってのほかだろうと思っています。また、この知的創造活動の基盤整備や人材の育成という部分からいうと、長期的視野からこれに取り組まなくてはいけないというふうに思っています。

そういった意味で、今回、事業仕分けということで、子どもゆめ基金とか、子ども読書応援プロジェクト、要するに子ども読書活動推進事業ですね、こういった部分が廃止というふうな話がありました。これはゆゆしきことじゃないかというふうに私は思っています。非常にすばらしい言葉を残された、ノーベル賞を受賞した野依良治さんが、反対ということで、歴史の法廷に立つ覚悟はあるのかと、こういったことをおっしゃってました。もっともだと思っています。将来、その歴史の法廷に立つ覚悟が本当にあるのかなというふうに——ちょっと議案とは離れましたけれども、読書をさらに推進できる町高槻として、全国にアピールできるような今回のシステムの導入だとも思いますので、さらに宣伝をしていただいて、何らかの、こういうシステムそのものに、愛称をつけるとか、何らかのイメージキャラクターをつくるとか、そういったことも考えて、広く市民、また市、全国にアピールできるようにお願いをいたしまして、質問を終了させていただきます。